

日本将棋連盟の谷川浩司会長が、コンピュータソフト不正使用疑惑に関する騒動の責任を取って18日、辞任を表明。19日の理事会でこれを承認した。特に昨年12月に、第三者の調査委員会が「不正の証拠は認められない」と判断した際の対応が甘く、問題を大きくした。

### 確認怠る

連盟は昨年10月12日、三浦弘行九段を年内出場停止処分としたが、その大きな根拠の一つが、7月末の対局の際、夕食後約30分も離席したのは不自然と相手棋士から指摘されたことだった。普通なら、これだけ長時間の離席は考えにくい。

ところが、調査委の詳細な調査の結果、離席は

# 将棋連盟 対応に不手際

6分弱、3分20秒、5分弱の3回に分け、計約14分だったことが明らかになった。谷川会長は「確認を怠った。痛恨の思い」と対応の不手際を改めて認めた。

### 心身疲労

会長自身の心身の疲労も重なった。問題が浮上

## 証拠なく出場停止

## 来期のA級は保証

した10月以来、食欲が減り、睡眠もままならなかったという。「このままでは会長の重責を維持するのは難しい。責任ある立場として迷惑は掛けられない」。言葉に力はなく、覇気のない谷川会長

の姿は周囲を驚かせた。

### 甘い読み

昨年12月27日、谷川会

長自身を含め理事会の幹部に役員報酬の10分の3を3カ月返上する処分を科した。また、出場停止期間中に不戦敗となった三浦九段への救済策とし

て、名人への挑戦権を争うA級順位戦で、来期もA級の地位を保証するという特例まで決めた。これで騒動はある程度、沈静化するという読みがあったようだ。

だが、沈静化するどころか棋士、ファンの不満がエスカレートしていった。ある高段者は「勝敗に関係なくA級保証とは聞いたことがない。なぜここまで特別扱いをする必要があるのか」と疑問を投げ掛けた。順位戦は1年を通して棋士が全力で戦い抜くもので、実際に前代未聞の措置。理事会の苦しい立場も鮮明になった。

連盟が失った信頼はあまりにも大きい。臨時総会で決まる新会長の下、どう回復していくのか、早急な立て直しが求められている。

## ソフト不正騒動 谷川会長辞任

三浦九段への救済策とし